

■豪州：NSW州で2010年2月から2年間スマートグリッド試験実施

豪州の大手小売電気事業者のエナジー・オーストラリア社は2009年10月19日、大手水道事業者のシドニーウォーターと共同で、2010年2月からスマートグリッドの実証試験を開始すると発表した。実証試験を行う場所は、ニューサウスウェールズ（NSW）州シドニー郊外のNewingtonとSilverwaterで、期間は2年間としている。1,000軒の需要家に次世代型の双方向通信ができる電力メータと水道メータを設置し、このうち一般家庭100軒については、iPhoneなどの端末から消費量を監視し、制御するホームエリアネットワーク（HAN）システムを構築する。また、ピーク時間帯の消費量を削減した場合の料金割引や、電気自動車を無料で利用できるプログラム等を準備するとしている。実証試験を通じて得られたデータは、電気と水道の使用状況の分析に活用する。両社は、2年間の実証試験を通じて、需要抑制効果により、電気・水道料金の節約額は合計40万豪ドル（約3,330万円）、GHG排出量の削減量は2,500トンになると試算している。この実証試験の投資額は1,000万豪ドル（約8億3,210万円）で、このうち150万豪ドル（約1億2,470万円）をNSW州の気候変動基金から助成を受ける。